編	章	節	条	枝番	工種		浿	定項目	規格値
10 道路編	1道路改良	3工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	ž	部材	部材長 l (m)	$\begin{array}{c} \pm \ 3 \cdots \leq 10 \\ \pm \ 4 \cdots > 10 \end{array}$
10 道	1 道	9 力	6		場所打函渠工			準 高 ▽	±30
路編	路改	ルバ					Æ	厚さ t₁∼t₄	-20
	良	 -					幅	i (内法) w	-30
		工					店	i ð h	±30
							延長	L < 20 m	-50
							Ĺ	$L \ge 20 \mathrm{m}$	-100
10 道	1 道	11	4		落石防止網工		幅	H W	-200
路編	路改	石雪宝				_	延	長 L	-200
	良	害防止工							
10 道路編	1道路改良	11落石雪害防止	5		落石防護柵工		髙	i δh	±30
		工					延	長 L	-200

NH4	-	++-	244-) Prod		44			単位:
測		基	準	測	定	筃	所	指	9 要
図面の寸法表	: 不箇別	で測定	.0						
両端、施工 組	*手及で	が図面の	の寸法表示管	Ś					
所で測定。									
				t 1	w t ₂	k	L		
				t₃ ↓ Γ		<u> </u>			
				h∫					
				t 4 7 do	- 	10000			
1 施工箇所毎									
拖工延長40 n	. (3Bit J	ま 月月 化戸 の	Eno の担人に	+				_	
50m) につ	き 1 筒	所、旅	江延長40 n	n					
(又は50m) こつき 2 箇所	以下 <i>0</i>	りものに	は1施工箇月	Ϋ́			L		
C = E(I)					· +	*			
1 施工箇所毎	:				h				
- ~르그	-			<i> </i> ::	∐:\/**/	· · ·	Ĭ.		

編	章	節	条	枝番	エ	種	浿	別 定 項 目	規 格 値
10 道路編	1道路改	11 落石雪-	6		防雪栅工		悒	引 さ h	±30
	良	害防					延	臣 長 L	-200
		止 工					基	幅 w ₁ , w ₂	-30
							礎	高 さ h	-30
10 道路	1 道路改	11 落 石 示	7		雪崩予防柵工		꺁	引 さ h	±30
編	良	雪害					延	長 L	-200
		防止工					基	幅 w ₁ , w ₂	-30
		土					礎	高 さ h	-30
							ア	打込みℓ	-10%
							ンカー 長 ℓ	埋込みℓ	-5%
10 道路	1 道路	12 遮音	4		遮音壁基礎工		幅	i W	-30
編	改良	壁工					悒	i さ h	-30
							延	是 長 L	-200
10 道	1 道	12 遮	5		遮音壁本体工			間隔 w ₁ , w ₂	±15
路編	路改	音壁					支	ず れ a	10
	良	I					柱	ねじれ b-c	5
								倒 れ d	h×0.5%
							凊	あ さ h	+30, -20
							延	臣 長 L	-200

		単位: mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 1施工箇所毎 基礎1基毎	W ₁ W ₂ L W ₁ W ₁ W ₂	
施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1箇所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所 につき2箇所。	h h	
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		

										規札	各値
編	章	節	条	枝番	エ	種	種 測定項		個々の (∑	測定値	10個の測定値の 平均(X ₁₀)
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上
10 道 路	2 舗装	4 舗 装			歩道路盤工 取合舗装路盤工 取戸舗法路般工		基	基準高▽	±	50	_
編	कर	工			路肩舗装路盤工			t <15cm	-3	30	-10
							さ	t≧15cm	-2	15	-15
								幅	-1	00	_
10 道 路	2 舗 装	4舗装			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工		厚		-	9	-3
編	液	五			表層工			幅		25	_

	1	単位	: mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘り	要
基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。 「個は、片側延長80m毎に1箇所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアーを採取して測定。	中規模とは、1層あたりの施工面積		

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定項	[目	規	格 値
10 道路編	2 舗 装	5排水構造物	9		排水性舗装用 工]路肩排水	基	準 高	5 ▽	±	: 30
		工					延	Ę	ŧ L	-:	200
10 道	2 舗	7 踏	4		踏掛版工		基	準	高	±	20
路編	装	掛版工			(コンクリー	下上)	各	部の月	厚さ	±	20
							各	部の:	長さ	±	:30
					(ラバーシュ	—)	各	部の:	長さ	±	20
							厚		さ	-	_
					(アンカーボ	ルト)	中	心の	ずれ	±	20
							ア	ンカ	一長	±	20
10 道 路	2 舗装	9 標識	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅	\mathbf{w}_1	, W ₂	_	30
編	ax.	工			(/示賊,在)爬上	.)	高	đ	h h	-	30
10 道 路	2 舗 装	9標識	4	2	大型標識工 (標識柱工)		設置	置高さ	Н	設計	値以上
五 編	ax ax	工			(127; и94,11. — /						

199

単位:mm 測 定 箇 所 摘要 測 定 基 準 施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1箇所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 1箇所/1施工箇所 1箇所/1踏掛版 1箇所/1踏掛版 1箇所/1踏掛版 全数 全数 全数 基礎一基毎 0 1箇所/1基 Н

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
10 道 路	2 舗装	12 道 路	5	1	ケーブル配管工	埋設深t	0~+50
編	20	付属施				延 長 L	-200
		心					
10 道 路	2 舗装	12 道 路	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30
編	20	付属施				※厚さ t₁∼t₅	-20
		設工				※幅 w ₁ , w ₂	-30
						※ 高さ h ₁ , h ₂	-30
10 道 路	2 舗 装	12 道 路	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
編		付属施				高 さ h	-30
		設工					

		単位:mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
接続部間毎に 1 箇所 接続部間毎で全数	接続部 接続部 (地上機器部)	
1 箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合	t ₃ W ₁ t ₄ t ₁ W ₂ t ₂ t ₃ t ₄ t ₁ W ₂ t ₂ t ₃ t ₄ t ₁ W ₂ t ₃ t ₄ t ₁ W ₂ t ₃ t ₄ t ₁ W ₂ t ₄ t ₄ t ₄ t ₄ W ₂ t ₅ t	
1 箇所/1 施工箇所		

編	章	節	条	枝番	I.	種	淮	〕定	項目	規格値
10 道路編	3橋梁下部	3工場製作工	3		鋼製橋脚製作	乍工			ヒベースプ トの鉛直度 δ (mm)	w/500
							部材	ベースプ	孔の位置	± 2
								レート	孔の径 d	0~5
									中心間隔、 長L(m)	$\begin{array}{l} \pm 5 \cdots L \leqq 10 \text{m} \\ \pm 10 \cdots \\ 10 < L \leqq 20 \text{m} \\ \pm (10 + (L - \\ 20) / 10) \cdots \\ 20 \text{m} < L \end{array}$
							仮組立時		クキャンバー 主の曲がり δ(mm)	L/1,000
								柱(の鉛直度 δ (mm)	10··· H≤10 H··· H>10

		単位:mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。	りませる サンド から サンド W ベースプレート	
全数を測定。	0 00 8	
全数を測定。	<u></u>	
両端部及び片特ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。	δ → ← δ δ → δ δ → δ → δ → Φ → Φ → Φ → Φ → Φ →	
各柱及び片持ばり部を測定。 H:高さ(m)	柳丽図 正面図	

編	章	節	条	枝番	工	種	涯	即 定 項 目	規格値
10 道	3 橋	6橋	8		橋台躯体工		基	基準高 ▽	±20
路編	梁下部	台工					鳫	厚 さ t	-20
							天	 端 幅 w₁ (橋軸方向)	-10
							天	 端 幅 w₂ (橋軸方向)	-10
							敷	文 幅 w ₃ (橋軸方向)	-50
							髙	5 さ h ₁	-50
							脢	列壁の高さ h2	-30
							天		-50
							敷	長 12	-50
							所	齊壁間距離 ℓ	±30
								支間 長 及 び 中心線の変位	±50
							支承部アンカ	計画高	+10~-20
							?— ボルトの箱	平面位置	±20
							相抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1 /50以下

205

単位:mm 測 定 箇 所 摘要 測 定 基 準 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 高、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。

出来形管理基準及び規格値 出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規格値
10 道路編	3橋梁下	7 R C	9	1	橋脚躯体工 (張出式)		基 準 高 ▽	±20
細	部	橋脚工					厚 さ t	-20
							天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-20
							敷 幅 w ₂ (橋軸方向)	-50
							高 さ h	-50
							天端長 1	-50
							敷 長 ℓ 2	-50
							橋脚中心間距離 Q	±30

支承部アンカー

ボルトの箱抜き規格値

		十四.100
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
	· 有脚中心問距離 · 文問長	

単位:mm

測 定 其 淮 測 定 笛 所 支間長及び 中心線の変位 ± 50 計画高 $+10\sim -20$ 平面位置 ± 20 アンカーボルト孔の 1/50以下 鉛直度

編	章	節	条	枝番	工	種	沮	一定 項 目	規 格 値
10 道	3 橋	7 R	9	2	橋脚躯体工		基	上 準 高 ▽	±20
路編	梁下部	C 橋 脚			(ラーメン式))	厚	ī ż t	-20
	μγ	工					天	端 幅 W1	-20
							敷	幅 w ₂	-20
							高	б さ h	-50
							長	:	-20
							橋脚	中心間距離 Q	±30
							支	え間 長 及 び 中心線の変位	±50
							支承部	計画高	$+10\sim -20$
							箱抜き規格値 ポアンカーボル	平面位置	±20
							ドの	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下
10 道 路	3 橋梁	8 鋼 製	9	1	橋脚フーチン(I 型・T型)		基	準 高 ▽	±20
編	下部	橋脚			(1至・1至)	,	悼	i w (橋軸方向)	-50
		工					髙	ら さ h	-50
							長	:	-50

209

油 ウ 甘 海	XIII 🕁 6% 🚟	単位:mm
測 定 基 準 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端	測 定 箇 所	摘要
部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	W1 ★→	
Z/NC/26] 10 & 0 0		
	<u> </u>	
	$\begin{array}{c c} h \\ \hline \end{array} \begin{array}{c} t \\ \hline \end{array} \begin{array}{c} t \\ \hline \end{array} \begin{array}{c} t \\ \hline \end{array}$	
	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
	線脚中心間距離 支間長	
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	52 n	
	Ž → h	
	W W	
	V → h	

単位:	mm
-----	----

編	章	節	条	枝番	I	種	測	定 項 目	規格値
10 道 路	3 橋梁	8 鋼 製	9	2	橋脚フーラ (門型)	チング工	基	準 高 ▽	±20
編	下部	橋脚工					幅	\mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	-50
		工					高	さ h	-50
10 道 路	3 橋梁	8 鋼 製	10	1	橋脚架設 (I型・7		基	準 高 ▽	±20
編	不下部	橋脚			(1主	1 生/	橋脚中	心間距離 0	±30
		工					支中	間 長 及 び 心線の変位	±50
10 道 路	3 橋梁	8 鋼製	10	2	橋脚架設 (門型)	Ľ	基	準 高 ▽	±20
編	下部	橋脚			(112)		橋脚中	心間距離 ℓ	±30
		工					支 中	間 長 及 び 心線の変位	±50
10 道 路	3 橋梁	8 鋼製	11		現場継手	Ľ.	現場# δ1	⊭手部のすき間 , δ2 (mm)	5 ※± 5
54編	来下部	終橋 脚工							

測 定 基 準	測定簡所	海 要 摘 要
例	側 走 箇 所 h ************************************	摘安
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	W2 W2	
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		

114	壮	mr

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
10 道路編	4 鋼橋上部	3工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材 部材長 ℓ (m)	$\begin{array}{c} \pm \ 3 \cdots \cdots \\ \ell \le 10 \\ \pm \ 4 \cdots \cdots \\ \ell > 10 \end{array}$
10 道路編	4 鋼橋上部	5鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1) 可動支承の移動可能量注2) 支承中心間隔(橋軸直角方向) 水下平沓度の 橋軸方向 可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差	±5 設計移動量 +10以上 ±5 4+ ±5 0.5×(B- 2) 1/100
10 道路編	4 鋼橋上部	5鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	可動支承の 移動量 注3) 据付け高さ 注1) 可動支承の移動 可能量 注2)	動量計算値の1/2 以上 ±5 設計移動量 +10以上
						支承中心間隔 (橋軸直角方向) 支 平承 度の 水 橋軸直角方向	±5
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差 可動支承の 移動量 注3)	5 温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上

213

	1				 平/	<u> </u>
測 定 基 準	測	定	筃	所	摘	要
図面の寸法表示箇所で測定。 支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、						
水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを承便覧慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。						
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 機能面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面区は対立支承と台座モルタル 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、 水平面の高低差を1mm以下とする。な な、で、ないではおけける場合を 除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測 し、支承据付時のオフセット量をを し、支承保管 の規格値を満かすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
10 道路編	4鋼橋上部	8橋梁付属物	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔 長	設計値以上
		エ				アンカーボルト定着長	−20以内 かつ −1D以内
10 道 路	4 鋼橋	8 橋梁	5		地覆工	地覆の幅 w ₁	$-10\sim +20$
編	上部	付属物				地覆の高さ h	$-10\sim +20$
		I				有効幅員 w2	0~+30
10 道 路	4 鋼 橋	8 橋 梁	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	- 5 ∼+10
編	上部	付属物				高 さ h	$-20\sim +30$
		工					
10 道 路	4 鋼橋	8 橋梁	8		検査路工	幅	± 3
編	上部	付属物				高さ	± 4
		I.					

215

単位:mm 測 定 箇 所 摘要 測 定 基 準 全数測定 全数測定 D:アンカーボルト径 (mm) 1径間当たり両端と中央部の3箇所測 1径間当たり両端と中央部の3箇所測 1ブロックを抽出して測定。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
10 道路編	5コンカ	6 プレビ	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
利田	クリート	ーム桁				高 さ h	10 -5
	橋上部	橋工				桁 長 Q スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ か つ $= 30$ mm以内
						横方向最大タワミ	0.8 l
10 道路編	6 トンネル (NATM)	4支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付けに工場 上。ただ施二等の 上。た整で施二等の 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で
10 道路編	6トンネ	4支保工	4		ロックボルト工	位置間隔	_
7710	ル N A					角 度	_
	Т <u>М</u>					削孔深さ	_
						孔 径	_
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内

217

単位:mm 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所とする。 1:スパン長 施工延長40m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測 注)良好な岩盤とは、道路トンネル技 術基準(構造編)にいう地盤等級A又 (2) (1) ^CL (3) 覆エコンクリート はBに該当する地盤とする。 吹付コンクリート 施工延長40m毎に断面全本数検測。

編	章	節	条	枝番	工種	測気	主項 目	規格値
10 道路!	6 ト	5 覆	3		覆エコンクリートエ	基準高	▽ (拱頂)	±50
路編	ンネル	工				幅 v	v (全幅)	-50
	\widehat{N}					高さl	n (内法)	-50
	A T M					厚	さ t	設計値以上
						延	長 L	_
10	e	u	u		はボーンカリートで			
10 道 路	6 ト ン	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅	W	-50
編	ネル					厚	き t	-30
	N A T M							

		単位:mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。(2) 厚さ(イ) コンクリート打設前の考立空点で割を立った。(ア) コンクリート打設長の終点を図に示す各名口で測定。(ア) ート打設後、覆工コン施工総手の位置) において、図に示す各点の参厚測定は図の(1)は経りでは、2)~(3)は100mに1箇所の割合で行う。(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所が(2)~(3)は100mに1箇所が割合で行う。なおいては、1トンネル延長が100m以下の場がおいては、1トンネル当たり2のにといるが、以下の場別による制には、左記の規格は適用除外とする。岩口で、以下の場が収束しているものに以りの3分の部以下の場合でいるものに、203分を変形が収束しているものに限り3分を変形が収束しているものに限る。異常土氏には安定が確認認されている。異常土氏には安定が確認認されている場所の手には安定が確認認されている場所の手には安定が確認認されている場所の手には安定が確認認されている場所の表別で表別で表別で表別である。	t (1) (3) 覆エコンクリート (4) (5) s	
施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		

337			
単	\overline{V}	•	mr

編	章	節	条	枝番	工 種	i	測定項目	規格値
10 道路	6 ト	6 イ	4		インバート本体工	(幅 w (全幅)	-50
絡編	ンネル	ンバー					厚 さ t	設計値以上
	\widehat{N}	ト エ				3	延 長 L	_
	A T <u>M</u>							
)							
10	6	8	4		坑門本体工			
道 路	トン	坑 門	1		19th 19th 14th 17th		基準高 ▽	±50
編	ネル(工					幅 W ₁ , W ₂	-30
	N A T M					高さ	$h \le 3 \text{ m}$	-50
	M					h	$h \geqq 3 \text{ m}$	-100
						3	延 長 L	-200

測定基準	測 字 笛 話	単位:mm 塩 亜
測定基準 (1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (『) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		摘要
図面の主要寸法表示箇所で測定。	$\begin{array}{c c} L & W_1 \\ \hline \end{array}$	

編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目規	格値
10 道路編	6トンネ	8 坑門工	5		明り巻工		基準高▽(拱頂)	±50
利相	ネ ル (N	<u> </u>					幅w(全幅)	-50
	A T M						高さh(内法)	-50
							厚 さ t	-20
							延 長 L	_

223

単位:mm 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘要 基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 40mにつき 1 箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点① ~⑩において、厚さの測定を行う。

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定項目	規格値
10 道	11 共	6 現	2		現場打躯体	江	基	準 高 ▽	±30
路編	同溝	場 打 構					厚	ŧ t	-20
		築工					内	空幅w	-30
							内	空 高 h	±30
							ブロ	ュック長 L	-50
10 道 路	11 共 同	6 現 場	4		カラー継手	ΞI	厚	さ t	-20
編	溝	打構					幅	W	-20
		築 工					長	ž L	-20
10 道路編	11 共同溝	6 現場打	5	1	防水工 (防水)		幅	w	設計値以上
		構築工							
10 道 路 編	11 共同溝	6 現場打	5	2	防水工 (防水保護	藍工)	厚	さ t	設計値以上
		構築工							

測 定 基 準	測定箇所	摘要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	例 疋 回 /기	加 女
小回川(地た。		
	t w t w t w t w t	
	h h h h	
図面の寸法表示箇所で測定。		
	t <u></u>	
	L L	
	w W	
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂 版で測定。		
/以 C (4月/C)。		
	k—√	
両端・施工継手箇所の「四隅」で測 定。		
	t <u>T</u>	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定 項	目	規格値	
10 道 路	11 共 同	6 現場	5	3	防水工 (防水壁)		高	さ	h	-20	
編	溝	打構築						幅		w	±50
		工					厚	さ	t	-20	
10 道路編	11 共同溝	7プレキャスト構	2		プレキャス	. 卜躯体工	基	準 高	∇	±30	
		構築工					延	長	L	-200	
10 道 路	12 電 線	5 電 線	2		管路工(管	路部)	埋	設 深	t	0~+50	
編	共同溝	共同溝					延	長	L	-200	
		工									

		単位: mm
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
図面の寸法表示箇所で測定。		
施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。	L L	
接続部(地上機器部)間毎に1箇所。接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	(地上機器部) (地上機器部)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
10 道路編	12電線共同溝	5 電線共同溝工	3		プレキャストボッ 工 (特殊部)	* 基 準 高 ▽	±30
10 道路	12 電線:	6 付帯	2		ハンドホール工	基準高 ▽	±30
編	共同溝	設備工				※厚 さ t ₁~ t ₅	-20
						※幅 w ₁ , w ₂	-30
						※高 さh ₁ , h ₂	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部(地上機器部)間毎に1箇所。		
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合	t ₃ W ₁ t ₄ t ₁ W ₂ t ₂ h ₁ h ₂ t ₅	

										規	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	ð	測定項	目	個々の 測定値 (X)	平均の 測定値 (X ₁₀)							
10 道 路	道 道 舗	道 舗 路 装	ii ii		切削オーバー	・レイエ	<u>J.</u>	厚さ	t	-	-9							
編								ф	Ħ	w	-	25						
							ž	近長	L	=	100							
							平坦性		性	I	3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下							
10					Db 1 = 4-7													
10 道路編	路路		4 7 舗 装 T		舗	舗 装		路上再生工			厚さ	t	-	30				
ЛРИШ	持				<u> </u>	4	<u> </u>	<u> </u>						路盤工	幅	w	-	50
							延長 1	L	=:	100								

231

単位:mm 摘 要 測 定 基 準 測定箇所 厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 現舗装 w 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。 幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び 中央の3点を掘り起こして測定。 現舗装 w

編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規格値
10 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4		桁補強材製作工		フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\begin{array}{ll} \pm 2 \cdots & \text{w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots & \\ 0.5 < \text{w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots & \\ 1.0 < \text{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{w}/2) \cdots & \\ 2.0 < \text{w} \end{array}$
							フランジの直角度 δ (mm)	w/200
							圧縮材の曲がり δ (mm)	£ ∕1000

			単位:mm
測定	基準	測 定 箇 所	摘要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構	各支点及び各支間 中央付近を測定。		
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き につき1個抜き 取った部材の中央 付近を測定。	I型鋼げた トラス弦材	
主げた	各支点及び各支間 中央付近を測定。	ν/2	
_	主要部材全数を測定。 & : 部材長 (mm)		